

毛細血管

都心部に乱立するマンションは、そのほとんどが画一的な価値軸の下に建設され、高層化されたマスと、高層化によって得られる巨大な空地によってできている。南面平行配置によって各住戸の日照は確実に得ることができ、地上に広がる児童公園は子供たちが、楽しく遊べると謳われる。

高層マンションはあるひとつの意味での幸福を確実に形にしている。

しかし、それらは幸福の一側面ではない。

密集市街地などの過密な地域に住む人々にとっての幸福も、同じく採光や通風であるならば彼等の生活は絶望的である。

密集市街地の路地に住む人々がそこに住み続ける理由はどこにあるのか。

彼等は路地の生活に異しみを感じている。

そして、それらが再開発によって失われることを知っている。

過密であることによるのみ得られるもの...

Concept

都市像の転換

都市居住の選択性は大量に供給される高層マンションによって一見、豊かになったように見える。

しかし、同じ価値軸のもと計画されるこれらのマンションに居住形態多様性の選択性は無い。

また現存する密集市街地の更新などにより都心居住はさらに画一化へと向かっている。

居室の快適性を第一に考える現行の価値軸の前に、密集市街地などの過密な集合形態は生き残ってはいけなさそう。

都市の豊かさが多様性によるものならば、価値軸の転換によって居住形態にも選択性を与えるべきである。

これまで密集市街地の路地において抜天的に発生した集住の価値。その価値軸における集住性を示し、密と疎が併在する新しい都市像を創出する。

敷地

大坂ビジネスパーク

敷地から徒歩十分、JR環状線を挟んで西側に、密集市街地とは対極のスーパーブロックのビル街が展開している。近年、情報ビジネス都市として開発が進められているこの地域には、14の超高層ビルが立ち並び、多数の情報関連企業が立地している。地上レベルのオープンスペースでは、人々がそれぞれの世界を別々に生きている。彼等はその場所を物理的に共有することはあっても、精神的なつながりを持つことはない。



大坂府大阪市城東区鳴野西

JR環状線沿線にある密集市街地。

住戸が過密に自然発生的に建て込まれた密集市街地は、それゆえに広大な空地を得ることができなかった。外部空間は狭く入り組んだ路地として人々の生活に入り込み、個人の生活を支えるインフラとして多くの役割を担ってきた。そこでは物理的な距離が絶対的なものとして生活に作用する。狭い住戸から溢れるようにして出てきた生活のモノは路地に強い領域性を与え、「界域性」などのことばで表されるような過密な居住環境を作り出す。近年、大坂ビジネスパークの建設、郊外化の見直しなどによって、高層マンションの建設が押し進められている。

密集市街地内部の建替も徐々に進められ、近い将来、美しく整備された都市の風景へと変化していくことは容易に想像することができる。密集市街地内の道路拡張、高齢化、老朽化などによる空家の増加、そして空家を取り戻して立てられる独立した戸建て住宅。密集市街地は徐々にその密度を失っていった。かつて、高密度で暮らすことにより生じた路地の密実な空気も失われて薄くなっている。



高層マンション地域

生活を誰かにスケールオーバーしたマスにおいて、人々は実際の距離感を感じ、個人の領域は小さな箱の中に押し込まれている。匿名化された住戸群の中で、住人は情報だけを頼りにコミュニティを作り上げる。外部空間は人々の関係を新たに生み出すものではなく、それぞれの生活がただすれ合うだけの空虚なヴォイドとして、そこに存在している。

高層集合住宅の空地の多くが児童公園とされていることは、子供によってしか関係を作り出せない外部空間の無力さを顕著に表している。



program

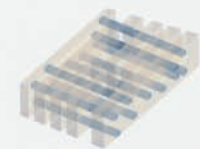
密集市街地の路地は住戸の間を縫うように通っている。それは見方を変えれば数き詰められたボリュームから路地を抜き取ったように見える。内包された外部空間は、領域を生む。小さなオープンスペースは専有空間となり、住人は場を専有することで近隣との関係を作りだす。路地の概念を立体的なボリュームの中で変化する。



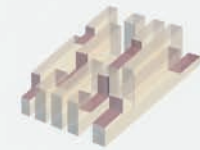
敷地をボリュームとして持ち上げる



ボリュームから一階部分の路地を抜き取る
ヴォイドは風の通り道となる



一階の路地と直行するように2階以上の路地を抜く



縦方向のヴォイドを抜く
縦方向のヴォイドは内部の関係を立体化しボリューム内に光を取り込む



それぞれの路地を繋ぐように連絡通路、階段を配置する。建物全体に可塑性が生まれ、点のつながりは線へ、面へ、さらに立体へと広がる。



断面模型



全貌



路地空間



路上屋頂



広場



広場断面

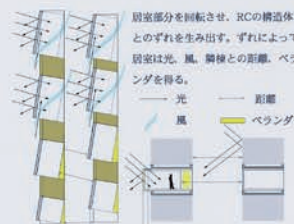
各住戸はRCの構造体からずれを生じることで内部に生活環境を作り出す。



東側を不可視な壁、西側を開口部とし各住戸は西側の空間を自分の空間とする。



各戸をユーティリティと居室に於て一列に配置。ユーティリティは遊歩りによって由な配置が可能となる



居室部分を回転させ、RCの構造体とのずれを生み出す。ずれによって居室は光、風、隣接との距離、ベランダを得る。

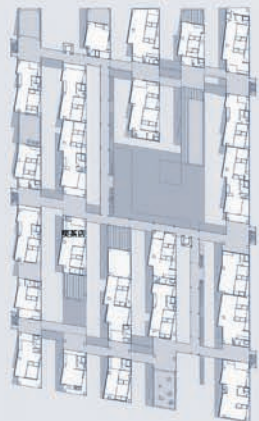


可動間仕切り
可動式の間仕切りによって居室に選択性がある。
床下収納
70㎡ 2~3人用住戸
平面計画は基本的に細長い共用スペースと、可動間仕切りで調整できる個室によって構成される。

S-1/100 住戸平面図



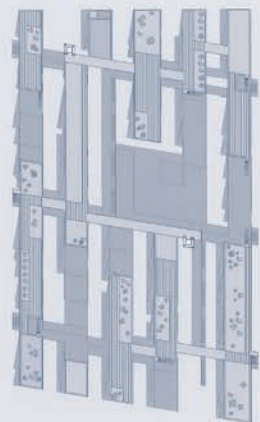
S-1/400 3階平面図



S-1/400 4階平面図



S-1/400 5階平面図



S-1/400 6階平面図



各階に配置された共用空間によって集合住宅の中に多様な動線が生まれ、回遊性を持つ通路は立体的な街路となる



S-1/150 a-a' 断面図



S-1/150 b-b' 断面図



S-1/200 c-c' 断面図

